

里山で見られる植物たち

春編

01 アメリカフウロ



科名：フウロソウ科 / 花期：3～6月

北アメリカ原産。実はツノのような形で熟すと亀裂が入り、下からまくれ上がってハンマー投げのような要領でタネを飛ばす。在来種のゲンノショウコと同じ仲間。

02 ハナニラ



科名：ヒガンバナ科 / 花期：4～5月

アルゼンチン原産の球根植物。白～薄紫の花で明治時代に観賞用として導入されたが、繁殖力が強く雑草化している。葉にニラに似た匂いがあるが食用にはできない。

03 ホトケノザ



科名：シソ科 / 花期：3～6月

名前は向かい合わせにつく2枚の葉が、仏像の台座（蓮華座）に似ていることから。タネにエライオソームというアリの好物がついていて、アリが運ぶことで分布を広げる。

04 ヒメオドリコソウ



科名：シソ科 / 花期：3～5月

ヨーロッパ原産。上部の葉が赤紫色になることが多い。葉の間から花が顔をのぞかせ咲く様子が在来種のオドリコソウ同様、笠をかぶって踊る「踊り子」のように見える。

※要注意外来生物に指定

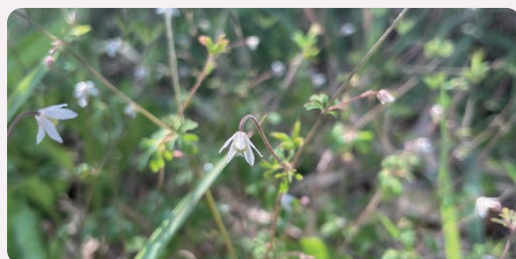
05 ブタナ



科名：キク科 / 花期：4～10月

原産地フランスでsaladede pore(豚のサラダ)の名があり、和名はそれに由来する。タンポポに似るが30～60cm程の花茎が途中で数本に分かれ、花をつけるのが特徴。

06 ヒメウス



科名：キンポウゲ科 / 花期：3～5月

烏頭(ウス)とはトリカブト類の根のことをさし、葉がトリカブトに似ていて、植物全体が小さいことが名前の由来となった。有毒で汁に触れるとかぶれることがある。

オオイヌノフグリ



科名：オオバコ科 / 花期：2～5月

ヨーロッパ原産で明治時代に渡来した。直径1cmほどの青や紫色の花を咲かせ、太陽の光が差すといっせいに開花する。別名「星の瞳」。花は短命で1日で落ちてしまう。

カラスノエンドウ



科名：マメ科 / 花期：3～6月

地中海沿岸原産。別名ヤハズエンドウ。エンドウに似たサヤをつけ熟すと黒くなることから「カラスのような野豌豆」となった。サヤはらせん状にはじけて種を飛ばす。

スイカズラ



科名：スイカズラ科 / 花期：4～6月

つる性。花は甘い香りがし2個並んでつく。名前は「吸い葛」の意で、古くは子どもが好んでこの蜜を吸ったことになむ。白から黄色に変化するので金銀花の別名もある。

ニワゼキショウ



科名：アヤメ科 / 花期：5～6月

北アメリカ原産。「庭に生えるセキショウ」を意味し、葉がセキショウ(ショウブ科)に似ていることが名前の由来。花は朝開き夕方しぼむ一日花で、白色と赤紫色とがある。

ハハコグサ



科名：キク科 / 花期：4～6月

古くは御形(ゴギョウ、オギョウ)とも呼ばれ、春の七草のひとつ。かつては草餅の材料としても利用されていた。茎や葉には白い綿毛が生え、全体が薄青緑色に見える。

サギゴケ



科名：サギゴケ科 / 花期：4～5月

花を鷺(サギ)が飛んでいる様子に見立て、また地を這いながら伸びる匍匐枝(ほふくし)を出し、苔のように広がることから名付けられる。湿った野原やあぜなどに多い。

